

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2024 年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部

一 般 選 抜 II 期

個 別 学 力 試 験 問 題

国 語

(国語総合)

注 意 事 項

- 1 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、監督者に知らせてください。

志 願 番 号		氏 名	
---------	--	-----	--

解答は、すべて解答用紙に記入すること。

問題Ⅰ

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

昔なじみや元の同僚がちらほら①鬼籍に入ってしまった、そう遠くないうちに自分も消えてしまうのだなあ、と意識しだした頃から、ひとは時の移ろいというものにいたく思いをはせるようになる。いままではとにかく時を駆つてきた。が、老いというものがしだいに自分に沁みわたってくるようになると、時の移ろいに身を漂わせる、そんな時間とのつきあい方に少しはなじんでくる。

じつさい、時が経つのは速いものだ。とふと人生をふり返ることもあれば、時がなかなか経たずにまどろっこしく感じ、その粘つきさに辟易することもある。時はこちらの心持ちしだい、速やかに流れもすれば、ほとんど流れずに淀んだままのこともある。

ア、いずれの場合も、時間というものを水の流れるようにとらえている点に変わりはない。時間という現象について、あるいは現象の形式について、ほぼ同時期に深い注意を払った哲学者に、ウィリアム・ジェイムズとエドムント・フッサールとアンリ・ベルグソンとがいる。かれらは西田幾多郎にもっとも大きな②エイキヨウをあたえた三人でもあるのだが、その最初のふたりもそれぞれに、時間の連続的な経過に着目し、それを水の流れるに喩えていた。いわく「思考の流れ」、「時間の流れ」というふうだ。

イ 時代をうんと遡って、古代ギリシャのヘラクレイトスはあらゆるものは生成のうちにあり、つまり「万物は流れる」と語っていたし、わが国の鎌倉時代に目を移せば、鴨長明がこう記していた。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」と。

時間を水の流れるに喩えるというのはどういうことか。「いま」はすぐに「いま」でなくなる、未だ「いま」でないものが次々に「いま」になる。「いま」とは現在であり、「いま」でなくなったものは過去であり、「いま」になるものは未来である。その未来から現在、そして過去への変化を、川の流れのように考えるということである。

しかし、時間はそもそもそのような、未来から現在へと流れ来たり、現在から過去へと流れ去るものなのだろうか。

ウ 時を測るとき、わたしたちはまず時計を見る。時計の時間は数量化された時間であり、その均質な時間の経過が時計の針とそれが刻む円形に配された数とで示される。それは言ってみれば、空間化された時間、点の連続としての時間である。しかし、時間がどのように体験されるかという視点から時間を眺めてみれば、それは移りゆくもの、過ぎゆくものであり、そのようなものとして、たとえば「時間がなかなか経たない」とか「も

う時間になったの?」「あつというまに過ぎたね」「さあ、いよいよこれからだね」というふうに感じられる。そういう緩急をもったものとして、それは水の流れに喩えられる。

エ、ひとはこうした流れのなかでその流れとしての時間をどのようにとらえているのか。そこでいま橋の上から川の流れを見下ろしているシーンを想像してみる。橋の上から川の流れを見下ろすには二つのやり方がある。上流の側の欄干にもたれ、向こうからやってくる流れを見ると、下流の側の欄干にもたれ、足許から向こうへ去ってゆく流れを見るのとである。言いかえると、まだないものがこちらに来るのと、足許にあるものがだんだん見えなくなつてゆくのとである。

人生の「上り坂」にあるひとはたいてい上流のほうに向かつて水を眺める。(A)これからやってくる先の時間のことはばかり考え、それとの関係で自分がいまやるべきことを決める。いずれ消えゆくものについてはよく考えないで、気を取り直して、次になすべきことを考える。そう、プロジェクトである。プロジェクトの「プロ」というのは、「前方に」「先に」「前もつて」を意味するラテン語の接尾辞 *pro-* である。プロジェクトも、もとはと言えば「前に投げる」という意味だ。そこである企業プロジェクトを開始するときにひとがすることを③レッキョ^③してみると、おもしろいことに気づく。

オ、利益(プロフィット)の見込み(プロスペクト)を立てる。立てば計画(プログラム)に入る。そしてそれにしたがって生産(プロデュース)を開始する。売りさばき、やがて約束(プロミス)手形で支払を受ける。そして④リジュン^④の計算をして、企業活動として進展(プログレス)があれば、さらに販売促進(プロモーション)に努める。そして一段落したところで、推進者には昇進(プロモーション)が待っている……。「プロ」のオンパレードである。これほどまでに仕事は「前向き」である。プロ、プロ、プロ。いつも前方ばかりを向いている。つまり、時の流れのいわば上流をしかと見つめながら、他よりいち早く流れを掴んだものが勝ちなのである。

これらの背景には、知識の増大、心理への接近、合理性の開花、道徳性の向上、技術力の増大、貧困からの解放といった、⑤啓蒙主義^⑤的な進歩主義的な歴史意識がある。さまざまな文明的な価値が人類の歴史のなかで累進的に増大していくという時代感覚であり、時代はよりよい未来に向けて前進しつつあるという歴史感覚である。

これに対して、(B) いまどきの若いひとたちはたぶん、そのようには時間を感じない。 そんな「前向き」の生活がひとの時間をどんなに貧しくしているかを、せかせかして余裕のない親たちの生活を見て知っている。先を見ても、荒らされた畑ばかりが見えて、自分が一から拓くような土地は見えない。だからすぐに「ぜんぶ見えちゃっている」とうそぶく。そして橋の上に立つても、流れ去る水ばかり見る。そして、前方をこれ以上見ても詮ない定年まぎわの初老のひとのように、こうつぶやく。「なんかもう済んだ感じ」「自分ももうそんなに若くない」、と。なんとも切ない光景だが、逆に、だから「いま」という時間を大事にしようと思いつめているようでもある。ともあれ、未来との関係で現在を位置づけるという生き方はもうできない

い。ここで何かをしなければもうぜんぶ終わってしまう……という、(C) せつばつまった感情が、思春期と呼ばれる人生の時期にせり出していることはたしかだ。

(鷲田清一著『わかりやすいはわかりにくい? 臨床哲学講座』ちくま新書 二〇一〇年、一部改変)

【二】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(二点×五＝十点)

【二】ア イ ウ エ オ に入る適当な言葉を一つ選び、番号で答えなさい。(二点×五＝十点)

- ① けれども
- ② まず
- ③ さらに
- ④ たしかに
- ⑤ では

【三】二重傍線部(A)「これからやってくる先の時間のことばかり考え、それとの関係で自分がいまやるべきことを決める」とあるが、筆者は、なぜこのような行動をとるひとがいると考えているのか。本文中の語句を用いて答えなさい。(六点)

【四】二重傍線部(B)「いまどきの若いひとたちはたぶん、そのようには時間を感じない」とあるが、筆者は若いひとたちは時間をどのように感じると考えているか。本文中の語句を用いて答えなさい。(六点)

【五】二重傍線部(C)「せつばつまった感情」とはどのような感情か。本文中の語句を用いて答えなさい。(六点)

問題Ⅱ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

まず記憶に残る最初の本との出会いは、幼稚園の面接で初めて教室へ入った時でした。そこに、たくさんのおえ切れないほどの絵本があったのです。思わず私は、「わーっ」と歓声をあげたい気分になりました。両親がほとんど本を読まない人でしたので、家にある本といえば、父の趣味の『熱帯魚の飼い方』とか、母の『毎日のおかず十二ヶ月』とか、家計簿とか、その程度でした。ですから、とにかく本がたくさんあるということだけで、すっかり①コウフンしてしまったのです。ここにある絵本を全部好きなだけ読めるのなら、幼稚園とは何と素晴らしいところだろうと思ひ、何ともいえない幸福感、解放感を味わいました。

それとほぼ同じ頃、同じように私にとって素晴らしい場所となったのは、歯医者さんの待合室です。『きかんしゃやえもん』、『ごんぎつね』、『ぐりとぐら』、『マッチ売りの少女』、『三年寝太郎』、『白雪姫』……。それから私は岡山に住んでいたので、当然『桃太郎』もあったと思います。そういう②心躍る絵本があったおかげで、歯医者さんに行くのがちっとも苦痛ではなく、いつまでもいたいと思うくらいでした。

今浮かんでくるのは、歯医者さんの待合室で、『ぐりとぐら』を読んでいる自分です。お③ギョウギ悪く床にぺちゃんこ座って、子供用でも大きすぎるスリッパが半分脱げそうになっていて、ソファを机代わりにして絵本を広げている。診察室から歯を削るドリルの音と、子供の泣き声が漏れてくるけれども、私の耳には届いていない。待合室にある石油ストーブの上で、シュンシュン鳴っている④薬缶の音だけが、静かに耳の底を流れていて、私は『ぐりとぐら』が焼くカステラは何て美味しそうなんだろう、できれば自分も一切れだけでいいから食べてみたいなあ」と、うっとり思っている。何度でも同じページをめくりながら、自分の順番がずっとこなければいいと願っている。それは歯の治療が怖いからじゃない、いつまでもぐりとぐらと一緒に遊んでいたいからなんだ、と誰に向かってでもなく言い訳している。これが、私の (A) 最初の読書風景です。

当時、絵本を読んでもらったり、すっかり暗唱して自分で読んだ気になったりしている時、一つ (B) 不思議に思うことがありました。今でもよく覚えているのですが、私は『きかんしゃやえもん』で、老いぼれたやえもんが鉄くずにされることになって、駅員さんから「かわいそうだが おまえは もう やくに たたないのだよ」と言われるところ、それから『ごんぎつね』で、前に働いた罪の償いのために、栗をこっそり運んであげていたきつねのゴンが、またいたずらをしていると⑤ゴカイされて、火縄銃で撃たれて死ぬところにお話が差し掛かると、必ず泣いてしまうのです。結局やえもんは博物館に運ばれて、鉄くずにならず済むとよく知っているのに、「やえもんを助けてあげて」と心の中で叫ぶ。ごんは死ぬと分かっているが、「撃たないで」と叫ぶ。すると自然に涙が出てきて、土間に淋しく残された、ごんが取ってきた栗の一山の様子を想像して、たまらなく哀しくなつたのです。

ところがなぜか、泣くことが嫌ではない。弟と喧嘩したり、母親に叱られたり、転んで痛い思いをしたりして泣くのは全部嫌なことなのに、どうし

て本を読んで泣くのは嫌じゃないだろう。嫌なところか、泣くと分かっていながら進んでページを開く。さらには、やえもんやごんのことを散々心配して、同情して、涙を流しても、そのあとちゃんとお腹が空いて、ご飯が食べられる。そのことが、子供心にも不思議だなあと感じていました。「悲しい」というのは辛いという意味だけではない、もつと複雑な感情らしい。そして、本を開くと本の世界へ行つて、閉じるとまたこちらの世界に戻つてこられる。本を開くというのは、あっちに行ったりこっちに帰つてきたりを自由に繰り返すことなんだ、という (c) 読書の感触も、おぼろげながら感じ取っていたように思います。

さて、いよいよ小学校入学を迎えたのですが、私は三月三十日生まれなので、同級生に比べると体も小さく動作も鈍く、体育の授業の時、制服を着替えるのさえもたまたして、皆から出遅れていました。そのことを母がひどく心配して、家で制服のブラウスのボタンを早く留める特訓をしました。ところが、不器用な私は母の期待にこたえようとすればするほど、ボタンを掛け違えたり、指先が言うことをきかなくなったりしてしまう。着替えだけでなく、給食を食べるのも、算数の問題を解くのも、粘土でなにかを作るのも、何もかもが皆より遅い。そういう愚図な自分が惨めで仕方ありませんでした。

そんなある時、私はブラウスを着ながら一つのお話を作りました。ボタンとボタンホールはとっても仲良しで、いつも二人で一つ。朝、女の子がブラウスを着ると、ボタンとボタンホールは「おはよう」と挨拶をして、二人で一日中お喋りをしている。ところがある日、糸が切れ、ボタンが外れてコロコロと転がっていつてしまった。一人ぼっちになったボタンホールは嘆き悲しむ。一方、ボタンはそれまで行つたこともなかった、ベッドの下やタンスの裏を転がって、いろいろな冒険をする。ほどなくして、お母さんがボタンを発見して、またブラウスに縫い付けてくれる。仲良しの二人は無事再会を果たし、ボタンは自分の冒険をボタンホールに話して聞かせてあげました。めでたしめでたし……というお話です。タイトルは「ボタンちゃんとボタンホールちゃん」というものでした。

私はそれからボタンをはめるたびに、そのお話を頭によみがえらせるようになりました。すると、ボタンが上手くはめられないのは、ボタンちゃんが冒険に出ているからで、自分のせいじゃないと言いつてくれるのです。そのことで、愚図な自分を惨めに感じなくて済むようになったのです。不器用で小さな自分の内側に物語を据えることで、自分の外側にある現実のありようを変化させた。これは、(D) 私が自分の作つた物語によって、自分を救つた最初の経験となりました。

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(二点×五＝十点)

【二】二重傍線部(A)「最初の読書風景」とはどのような風景で、そのことを通して筆者はどのように感じたのか。本文中の語句を用いて答えなさい。(八点)

【三】筆者が読書を通して気づいた二重傍線部(B)「不思議に思うこと」とほぼ同時に感じた二重傍線部(C)「読書の感触」はどのようなことか。それぞれについて、本文中の語句を用いて答えなさい。(八点×二＝十六点)

【四】二重傍線部(D)「私が自分の作った物語によって、自分を救った最初の経験」とはどのような内容か。本文中の語句を用いて答えなさい。(八点)

【五】本文を踏まえ、「あなたの読書との出会い」について、二〇〇字以内で書きなさい。(二十点)

二〇二四年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜試験Ⅱ期 個別学力試験		
氏名	国 語	
志願番号		

得 点

問題Ⅰ

【二】	【三】	【四】	【五】
①	ア		
②	イ		
③	ウ		
④	エ		
⑤	オ		
10点	10点	6点	6点

問題Ⅱ

【二】	【三】	【四】
①	不 思 議 に 思 う こ と	読 書 の 感 触
②		
③		
④		
⑤		
10点	8点	8点

〔五〕

20点

氏名	国語	二〇二四年度 一般選抜試験Ⅱ期 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 個別学力試験
		志願番号

二〇二四年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜試験Ⅱ期 個別学力試験		
氏名	国	語
志願番号		
得 点		

問題Ⅰ

【二】	①	②	③	④	⑤	けいもう
【三】	ア	①	イ	③	ウ	④
（例）知識の増大、心理への接近、合理性の開花、道徳性の向上、技術力の増大、貧困からの解放といった、啓蒙主義的ないしは進歩主義的な歴史意識や、さまざまな文明的な価値が人類の歴史のなかで累積的に増大していくという時代の感覚、そして時代はよりよい未来に向けて前進しつつあるという歴史感覚をもっているために、時の流れの上流をしかと見つめながら、他よりいち早く流れを掴んだものが勝ちと考えているから。	①	イ	③	ウ	④	⑤
【四】	（例）そんな「前向き」の生活がひとの時間をどんなに貧しくしているかを、せかせかして余裕のない親たちの生活を見て知っているため、橋の上に立つても、流れ去る水ばかり見てしまい、未来との関係で現在を位置づけるという生き方はもうできないと考えている。					
【五】	（例）未来との関係で現在を位置づけるという生き方はもうできないと考えているため、前方をこれ以上見ても詮ない定年まぎわの初老のひとのようになり、「なんかもう済んだ感じ」「自分ももうそんなに若くない」とつぶやいてしまいう若いひとたちが、逆に、だからこそ「いま」という時間を大事にしようと思いつめ、いまここで何かをしななければもうぜんぶ終わってしまうのではないかとあせつてしまう感情。					
6点	6点	6点	10点	10点		

問題Ⅱ

【二】	①	②	③	④	⑤	誤解
【三】	①	②	③	④	⑤	
（例）歯医者さんの待合室で、お行儀悪く床にぺちゃんこ座つて、スリッパが半分脱げそうになつていて、ソファを机代わりにして絵本を広げて『ぐりとぐら』を読んでいる姿。「ぐりとぐらが焼くカステラは何て美味しそうなんだろう、できれば自分も一切れだけほしいから食べてみたいなあ」と思い、何度でも同じページをめくりながら、自分の順番がずつとこなければいいと願っている。	①	②	③	④	⑤	
【四】	（例）ボタンをはめるたびに、「ボタンちゃん」というお話の頭によみがえらせ、内側に物語を据えることで、外側にある現実のありようを変化させたということ。					
8点	8点	8点	8点	10点		

二〇二四年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜試験Ⅱ期 個別学力試験		
氏名	国語	
志願番号		

【五】																			
		採点のポイント ・テーマ「あなたの読書との出会い」に合った内容か。 ・常体と敬体が混在していないか。 ・話し言葉になつていないか。 ・へら抜き言葉、違かつた、「なので」始まり等 ・誤字／脱字はないか。 ・文字数は適切か。(一五〇～二〇〇字)																	

20点